

# 走る、観る、食べる、楽しむ……。 “水郷こしがや”の自転車政策を語り合う。

全国自転車施策推進自治体連絡協議会会長  
(埼玉県越谷市長)

スペシャル  
対談

# 高橋 努

一般社団法人自転車協会理事長

# 山崎 一

司会進行

本誌編集長・高木 賢

## 放置自転車問題の解消に取り組んできた全自連 自転車協会もBAA制度を導入し、 粗悪自転車の排除に注力

一本日は全国自転車施策推進自治体連絡協議会(全自連)の会長を務めておられる越谷市・高橋 市長と一般社団法人自転車協会の山崎理事長に越谷市のまちづくり、自転車行政などについて



高橋努市長

### ●高橋努市長プロフィール

1943年、越谷市に生まれる。1962年、越谷市役所入庁。1975年、越谷市役所を退職。同年、越谷市議会議員に当選し、6期・1998年まで務めた後、同年埼玉県議会議員に当選。4期・2009年まで務めた後、同年越谷市長選に立候補し、初当選。2017年に3期目の当選を果たし、現在に至る

話し合っていたideきたいと思ひます。高橋市長は生まれも育ちも越谷ですし、越谷のことは誰よりもよくご存知です。一方の山崎理事長も越谷市に本社を置く自転車メーカー、ホダカの会長でもありますから、やはり越谷市の魅力というものをよく理解しておられます。自転車というテーマをベースとして、お2人に越谷市のまちづくりについて語っていただくことは今後の全国の自転車行政の有り方を考える上で大いに参考になると言えるでしょう。忌憚のない、活発な意見交換を期待したいと思います。

高橋「全自連、すなわち全国自転車施策推進自治体連絡協議会は1992年に結成された自治体の全国組織ですが、この組織を結成した主たる目的は放置自転車の解消ということでした。全国の地方自治体が連絡を取り合

い、放置自転車問題に取り組んでいこうということで活動を展開してきました。放置自転車問題は1980年代がピークで、全国の主要都市部で大きな社会問題になっていましたからね。越谷市も例外でなく、東武線・JR武蔵野線が通る越谷市では大量の放置自転車に悩んでいました。越谷市としてはこれを何とかしなければいけないということで、自転車駐車場整備センターや民間の駐輪関係企業と連携し、放置自転車問題の解消に取り組んできました。放置自転車の禁止区域を設定し、撤去作業にも力を入れてまいりました」

**山崎**「当時、放置自転車問題にはどこの自治体も悩まされてきましたね」

**高橋**「放置自転車問題というのは駐輪場を整備するだけでなく、放置自転車の撤去作業や保管にも費用がかかるわけでして、大変でした。しかし、2002年には年間で約1万3000台あった放置自転車が、去年は年間で約1800台まで減らすことができます。現在の放置自転車は



山崎一理事長

ピーク時の10分の1くらいです。これまで頑張ってきた甲斐があると考えております」

**山崎**「確かに20～30年前というのは放置自転車問題がピークでした。しょっちゅう新聞とか週刊誌に放置自転車の記事が掲載されていましたね。放置自転車問題というのは自転車業界にも原因がありました。つまり、値段が安い、粗悪な自転車が街にあふれてしまっていたということなんですね。1990年代の後半に輸入関税が撤廃され、中国から日本国内に廉価な自転車が大量に入ってきました。それ

が放置自転車問題の要因につながっていた一因と言えます」

**高橋**「当時は自転車の値段が極端に安くなっていました。自転車が粗末に扱われ、簡単に放置されていましたね。私の子供時代は自転車の価格が高かったですから一生懸命手入れして、磨いて使っていたものです。放置するなんてもったいなくてできなかったですよ。それが今から30年ほど前くらいに中国製の安い自転車が急増し、自転車を放置することへの抵抗感が薄れてしまったんですね」

**山崎**「自転車協会もそういった事態に対して大いに悩みました。それでBAAマーク制度をスタートさせたのです。粗悪自転車の排除です。自転車協会は、一定の品質が保証されたBAAマークの付いた自転車を買いましょうというキャンペーンに取り組んできました。その結果、自転車の品質は間違いなく上がってきました。BAAマーク制度は自転車の品質を底上げすることに対して一定の役割を果たすこと



本誌・高木賢編集長

ができたと考えています」

**高橋**「確かに最近はしっかりした自転車が増えてきました。いいことだと思います。機能がよくなったせいか、スピードを出しすぎて危ないようなシーンも時々見かけたりしますが(笑)」

**山崎**「最近の傾向としましては競技用のスポーツ車というのではなく、スポーティーに乗れる自転車が増えています。クロスバイクと呼ばれるフラットバースタイルの自転車の人気が高まっています。自転車の脱ママチャリ化が強まっていますね。自転車の機能が進化していますし、お洒落でスタイリッシュな自転車、楽に走れる自転車が増えています。電動アシスト自転車が急増していることも最近の特徴です」

**高橋**「電動アシスト自転車は人気が高いようですね。街中でよく見かけるようになりました」

## 自転車走行のルール・マナー順守は基本中の基本 小・中学・高校生対象の 自転車講習会に注力

—新型コロナウイルスの感染が収まらない中、3密を避けるという意味で自転車の需要が伸びていますね。

**高橋**「越谷市もコロナ対策はいろいろと実行しているのですが、感染経路の追跡調査がなかなか難しいので困っています。市としましてはマスク着用、手洗い、ソーシャルディスタンスの励行や3密をなるべく避けていただ

くよう市民の皆様に徹底してお願いしております。越谷市の新規感染者をできるだけ抑えるよう懸命に努力を続けています。自転車に乗るということは3密を避けることにつながりますので、自転車の利用、活用というのはお薦めしたい移動手段だと思います」

**山崎**「実際、自転車に乗ることで3密を避けるという意識を持つ人が多く、自転車の需要が伸びています。自転車の品不足が懸念されるような状況になってきています」

**高橋**「自転車は手軽で身近な乗り物なので、コロナ禍でも需要

が高いというのは納得できますね。ただ、自転車に乗る人が増えるということは事故の危険も増えるということなので安全対策、事故防止対策には力を入れなければいけないと認識しています。本当は自転車専用道路を増やすことができれば一番いいのですが、予算のかかることですからそれを積極的に行うというのはなかなか難しいのが現実です。道幅の広い道路にはブルーラインを引いて自転車通行帯を設定したりしていますが、道幅が狭い道路が多いので自転車通行帯をつくるのが難しいエリアが多いというのが実情です。



越谷レイクタウンはサイクリストに人気のスポットだ

越谷市としては自転車に乗る人に安全走行のルール・マナーを守ってもらえるよう努力しています。そうしたことの呼びかけを幅広く実施しています」

**山崎**「自転車協会は自転車の事故についていろいろと調査しているのですが、自転車に関係している交通事故が非常に多いということがデータ上で明らかにされています。交差点とか歩道での事故が多いですね。これは大いに問題視しなければいけないことです。自転車に関する交通事故を減らすには自転車に乗る人がルール・マナーをきちんと守るとするのが最も肝心なことだと思います。逆に言えば、走行のルール・マナーをしっかりと守れば自転車の交通事故はかなり防げるということなんです。自動車、自転車、歩行者がそれぞれの立場をしっかりと認識し、道路を分け合うというような考え方が大事だと思います。そういう観点に立って、自転車協会では小・中学校、高校など学校での自転車講習会の実施を強化していきたいと考えています」

**高橋**「越谷市の高校生は自転車通学が多いので、彼らを対象とした自転車講習会というのはとても大事なことです。学生に対する自転車走行の指導というのは越谷市としても強化していきたい案件です。若い人はどうしてもスピードを出す傾向がありますからね。自転車走行のルール・マナーの順守は事故防止のための不可欠事項です」



東埼玉資源環境組合のリユース展望台

**山崎**「大体にして、自転車に乗っている人が自転車は軽車両であると理解しているかどうか疑問です。軽車両に乗っているという意識が薄いので、道路を逆走したり、道路の右側を走ったりするんですね。自転車が道路の左側を走ることや逆走禁止ということを徹底させることは基本中の基本です」

**高橋**「越谷市では交通指導員による安全走行講習会をなるべく増やすようにしています。特に春先は講習会の頻度を拡充しています。保護者の方の中には道路を斜め横断する人がいたりしますが、こうした行為はとても危険なのでやめていただくよう交通指導員に特に注意してもらっています。それと自転車保険の加入を義務化して不測の事態に備えています。とにかく安全・安心に留意して自転車に乗っていただくということがとても大切であるということは申すまでもありません」

## 好評のサイクルカフェ サイクリストが 市内散策の拠点 として利用

—越谷市では「こしがやサイクルカフェ」というユニークな取り組みを実施していますね。

**高橋**「越谷市は全体的に平坦な地形なので、自転車で走りやすいんですね。しかも緑豊かな自然が残っていますし、江戸時代に宿場町として栄えた痕跡を伝える建物、歴史ある商店も現存しています。神社・仏閣、梅林公園、河川の桜堤、イチゴ農園など名所旧跡や魅力的な観光スポットもたくさんあります。もちろん、大規模調節池の越谷レイクタウンも人気が高いエリアです」

**山崎**「越谷レイクタウンには年間約500万人を超える人がやってくるそうですね。この数字は東京ディズニーリゾートの年間集客数を上回っていると言

いますから大変な人気です」

**高橋**「越谷市では市内の観光スポット、お薦めエリアを自転車で巡りやすいようにサイクリングコースを作成し、提示しています。そのサイクリングコースにある魅力的なカフェやレストランをサイクルカフェとして紹介しているんです。サイクルカフェには自転車ラック、自転車の工具、空気入れなどが用意されており、サイクリストを迎えています。サイクルカフェはサイクリスト、自転車ツーリストの拠点になっているんです」

**山崎**「オシャレでおいしい飲み物、食事を出してくれるお店が



大相模調節池周辺を訪れるサイクリストは多い

多いですね。とにかく越谷市にはサイクリストを歓迎してくれる環境が揃っています。のんび

りとスイーツ巡りを楽しむのもいいんじゃないでしょうか」

**高橋**「ホダカさんにもご協力いただいておりますが、越谷レイクタウンにはレンタサイクルも用意しています」

**山崎**「越谷市が展開している自転車行政はかなり意欲的なもので、他の地方自治体からも注目されています。同じような試みにチャレンジする自治体が増えていると聞いています。また、観光客だけでなく、越谷市民の皆様も自転車で自分達の街を散策する人が増えているというのが素晴らしいことだと思います。地元の住民が自転車で街中を巡るというのは健康的なまちづく



サイクルカフェでくつろぐ女性サイクリスト



サイクルカフェには空気入れや車体調整用の工具が用意されている



リユース展望台から越谷市の田園風景を望む

りにつながることですし、経済の活性化にも貢献することになるはず。越谷市は自転車を活用したまちづくりのひとつのモデルケースを提示していると言えるのではないのでしょうか」

## 市街化調整区域は 緑豊かな自然がいっぱい 周辺の自治体と連携した広域組織も結成

「確かに越谷市には行ってみたい観光スポットが多そうですね。知られざる観光資源がいっぱいあると思いますので、それらを活かした自転車行政をさらに進めてほしいです。

**高橋**「越谷市は自転車でまわるのにちょうどいい距離感なんです。半日コース、1日コースなどいろんな散策コースをご用意していますし、それらのコースを組み合わせると各エリアを訪ねていただくのもいいかもしれません。天気の良い日に自転車で走るのが最適なエリアがいっぱい



あります。開発を抑制している市街化調整区域は緑豊かな自然環境が残っています。サイクリストの皆さんにお勧めできるエリアがたくさんあります。

それと越谷市は周辺の自治体と連携し、埼玉県東南部都市連絡調整会議という広域組織を設けています。参加している自治体は越谷市、草加市、八潮市、三郷市、吉川市、松伏町の5市1町で、広域的な行政課題に取り

組んでいます。同会議の活動の一環として5市1町の地域住民がエリア内にある野球場、サッカー場などの公共施設を予約して使うことができます。「まんなまるよやくシステム」と称していますが、お陰様で好評です。周辺自治体との連携というのは大事なことだと考えています」  
**山崎**「周辺の自治体と協力して地域活性化をはかっていくという考え方は素晴らしいことです

## 自転車を活用したまちづくりの推進には 地方自治体と自転車界の連携強化が 不可欠事項



葛西用水のウッドデッキはサイクリストの休憩ポイントだ

ね。サイクリングを楽しむには絶好の環境が揃っています。東京からサイクリングに訪れた人にとっては羨ましくなるような風景が広がっています」

**高橋**「外から走りにはらっしゃったサイクリストの皆さんにはかなり満足していただいているようです。私もそうなのですが、地元の人にとっては当たり前景色になっていますので、越谷の魅力というものが理解できていないのかもしれない(笑)。最近では越谷市民の人達も自転車で気ままに郊外のサイクリングを楽しむことが多くなっていると聞いています。女子会ライドといったサイクリングの集まりもあるそうです」

**山崎**「東京から近いのも越谷市の魅力です。都心から電車で40分くらいの位置関係ですからね。クルマで越谷市まで来て、そこから自転車でツーリングを楽しむ人も多いようです」

**高橋**「越谷市は今、増え続ける観光客の受け皿づくり、施設の整備をどのように進めていくべきかに想いをめぐらしているところですよ。イチゴ観光農園など

もイチゴ狩りに来る人が増えており、生産が間に合っていない状態なので農園を拡張していく予定です。道の駅の建設も検討中です」

**山崎**「島根県の益田市ではイチゴ狩りに加えて親子でイチゴ大福づくりをやっていただくということを進めています。それもひとつのアイデアだと思います。自転車というのは家族、仲間と一緒に乗ることが多いですから家族で楽しんでもらえるような場を提供していくというのが理想的なスタイルですね」

—健康的なライフスタイルを提案していく中で自転車というのは親和性が高いツールですね。

**山崎**「そう思います。親子でサイクリングを楽しむ人達が増えていけば自転車のルール・マナーを守るということも自然に幅広く浸透していくんじゃないでしょうか。親が子供に自転車の走り方を教える機会が多くなるわけですからね」

**高橋**「そういった楽しく有意義な風景を増やせるよう私達も努力していきたいと思います」

**山崎**「ここ何年かグリーンシーズンにスキー場をマウンテンバイクの走路として開放している施設、自治体が増えてきています。スキー人口が減っていますのでスキー場としても冬場以外の季節で集客をはかりたいわけです。そこで自転車に注目が集まっているのです。自転車協会



人気の高いいちごタウン



逆川緑道は快適な空間だ

ではマウンテンバイクフィールド助成金制度を設けてスキー場にマウンテンバイクの走路をつくるお手伝いをしています。我々としてはマウンテンバイクのフィールドづくりに限らず、幅広い観点に立って自転車走行の環境づくりを進めていきたいと考えております。そのためには地方自治体の皆様との連携強化が不可欠だと考えています。そういう意味でも自転車政策に熱心な越谷市さんとはさらに協力しあって自転車利用の輪を広げていきたいと願っております。自転車講習会などにつきましてもリクエストがあればお手伝いさせていただく用意は充分にあります」

**高橋**「走行の安全性さえ注意すれば自転車は健康的でイメージがいいですからね。越谷市としてもいろいろとアイデアを考えていきますので、自転車協会さんとの協力関係を深めていければと思います。また、越谷市にとどまらず全自連としましてもさらなる自転車政策の強化拡充

をはかっていきたいと思っておりますので自転車業界の方々とは連携を密にしていきたいと思っております。アフターコロナでは全国的に自

転車の利用、活用がさらに進んでいくと思います」

**山崎**「国が自転車活用推進法を定めたわけですから自転車の政策はさらに重視されていくはずですよ」

**高橋**「自転車は便利で身近な乗り物ですからね。越谷市としましてもさらに積極的な自転車行政を進めていきたいと考えています。サイクリングのコースづくりなどはさらなるスピード感を持って進めていきたいと考えています」

**一日は有意義なお話をありがとうございました。**



日本庭園花田苑。敷地内に能楽堂もある



春には花見客でにぎわう元荒川桜堤